

タイヤバースト防止の点検方法とバースト発生時の対応について

タイヤのパンク・バースト故障は非常に多くなっており、特に多軸、ダブルタイヤ(複輪)を使用しているトラック・バスではパンク・バーストに気づきにくく、走行安定性や制動力が低下し、重大な事故や、そのまま走り続けるとタイヤの出火につながるおそれがあります。

運行前には必ずタイヤの点検を行い、パンク・バースト時には適切な対応をお願いします。

<JAF ロードサービス 主な出動理由 TOP5(2024年度)>

◆ 一般道路

順位	故障内容	件数	構成比
1	過放電バッテリー	755,785	35.31
2	タイヤのパンク、バースト、 エア圧不足	427,833	19.99
3	破損/劣化バッテリー	185,855	8.68
4	落輪・落込	132,452	6.19
5	キー閉じ込み	106,995	5.00

◆ 高速道路

順位	故障内容	件数	構成比
1	タイヤのパンク、バースト、 エア圧不足	26,219	42.27
2	燃料切れ	5,843	9.42
3	事故	5,032	8.11
4	過放電バッテリー	2,864	4.62
5	発電機/充電回路	1,439	2.32

出典:「JAFロードサービス 主な出動理由TOP10 2024年度 年間『四輪・二輪合計』より抜粋



・タイヤのバーストを防ぐために

タイヤの状態を確認してください

1 空気圧点検

◆外観では空気圧の判断がしにくいため、必ずエアゲージを使用してください

・空気圧の点検・調整は、必ず走行前のタイヤが冷えている状態で行ってください。

◆空気圧は、標準空気圧に調整してください。

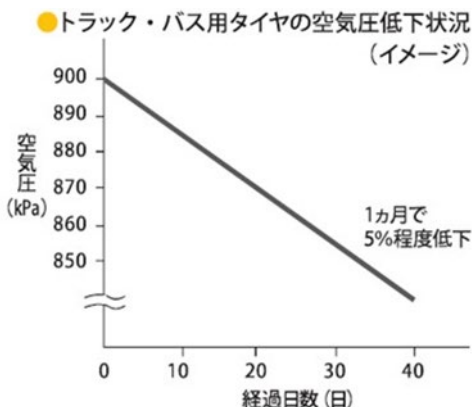
・標準空気圧は、運転席側ドアピラー部等に示してあります。

・ダブルタイヤの内側と外側は、同じ空気圧に調整してください。

・空気圧が極端に低い場合、パンクの可能性がありますので、タイヤに異常がないか確認してください。



タイヤの空気圧は自然低下します。



※タイヤの空気圧が低いまま走行すると、バーストしたり、ホイールボルト・ナット損傷による車輪脱落事故の原因となります。

出典元: 日本自動車タイヤ協会(JATMA)

2 タイヤの状態点検

このようなときはタイヤを交換して下さい。

タイヤが摩耗しスリップサインが 現れたとき	タイヤに釘や異物等が 刺さっているとき	タイヤの接地面や側面に 亀裂、損傷があるとき
 スリップサイン 表示位置マーク		 出典元：横浜ゴム株式会社

・タイヤバースト発生時の適切な対応

急ハンドル、急ブレーキを避けて車両を停止させてください

タイヤがバーストすると車両挙動が不安定になる場合がありますので、以下に示す対応をお願いします。

- 1 ハンドルをしっかり握り、急ハンドルは避けてください。
- 2 急ブレーキは避け、徐々に速度を落とし、ハザードランプで後続車に注意を促しながら、安全な場所に停車してください。

ブレーキの効きが悪く停止できない場合は駐車ブレーキも活用してください

バーストしたタイヤがブレーキ配管などを損傷させる等により、ブレーキの効が悪くなった場合には、以下に示す対応をお願いします。

- 1 ブレーキの効が悪い場合はシフトダウンしてスピードを落とし、駐車ブレーキレバーを徐々に引き駐車ブレーキを作動※させてください。

※なお、ご使用の車両によってはブレーキ部品の保護を目的に、ブレーキペダルを踏んでいる間は、駐車ブレーキが作動しない場合があります。

それでも車両が減速しない場合は緊急退避所などを利用してください。

詳細はご愛用されている車両の取扱説明書をご覧ください。